

**教育目標**

「自由と規律を尊び、確かな学力を身につけた、  
自他を尊重できる心身ともに健康な生徒の育成」

**年度末の最終評価**

自己評価	<p><b>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学校全体として、生徒自らが自主的かつ自律的に取り組めるよう、生徒会活動・学級活動・部活動等と連携した取組を推進し創造する。</li><li>・日々の授業は、各学年ともに落ち着いた状態で行えた。学校全体としてはインプットの授業だけでなくアウトプットを重要視した授業形態が多くみられ「自ら考え表現し聴く活動」が定着している。</li><li>・各学年の課題もあるが、教育目標達成に向けた取組とその成果は感じられる。</li></ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○小中一貫の取組がすすんでいることを評価する。今後もすすめてほしい。</li><li>○地域貢献という視点を大切にして取り組んでほしい。</li><li>○各分野において、丁寧に取り組んでおり評価する。</li><li>○小中の連携は進んでいると感じるが、より具体的な9年間を見据えた取組について、検討・実践していただきたい。</li><li>○学校運営協議会の学習部会との連携においてさらなる活性化を図る。</li></ul>

**学校関係者評価の評価日・評価者**

	評価日	評価者
中間評価	平成30年11月6日	学校運営協議会
最終評価	平成31年2月26日	学校運営協議会

**(1)「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』**

**重点目標**

インプットとアウトプットのバランスを重視しつつ、主体的で対話的で深い学びの授業をめざすとともに、学習確認プログラム等「狭義の学力(見える学力)」の向上に努めることで「自ら考え、表現(語る・描く・書く・歌う・奏でる)し、聴く」力を育成する。

## 具体的な取組

- 校内授業研究（研修）の活性化…1学期での授業研究を2学期以降に活かす
- 授業最初に「学習の目標（めあて、ねらい）」を提示し、授業の最後に「振り返り」を実施する
- 授業の構成として「考える」時間帯、「表現する」時間帯、「聴く」時間帯を確保しインプットとアウトプットのバランスを重視する
- 各種行事や集会において「表現する」機会を多くとり、思考力・判断力・表現力を高める
- 家庭学習の手引きの有効活用する
- 全校として週末に課題（宿題）をだし、家庭での学習を定着させ基礎学力の向上を目指す
- 学力向上委員会において、学習確認プログラムや週末課題の効果を分析し、教職員研修に役立てる
- 学力向上委員会と連動した教科会を実施する
- 従来から行われている朝学習・朝読書を継続させるため、朝の時間の確保を行う（時呈の改編）
- 土曜学習について1・2年は定期考査前の土曜日5回、3年生は従来からの11月からの土曜日と定期考査前の土曜日16回の構成とする
- 「振り返りスタディ」「未来スタディ」を有効活用する
- 定期考査前1週間（部活動停止期間）の放課後30分自主学学習（全員参加）を実施する
- 図書館活用を推進し、調べ学習などを通して学力育成の場とする
- 「総合的な学習の時間」における問題解決学習や探究活動を推進する
- 1年生で実施する伝統文化体験学習（茶道・華道・書道・琴・タップダンス・手芸等）を通じて、教科に偏らない幅広い学習を確保する。
- 縦割り活動として収穫祭を充実させるとともに、道徳の縦割り学習を行う（全校道徳）
- 自ら考え表現し聴く活動として次の活動を充実させる
  - \* 学校祭（文化の部・体育の部・合唱の部）
  - \* 英語暗誦（リサイタル）
  - \* 英語のフィールドワークの継続（2年生）

## （取組結果を検証する）各種指標

- 学校運営協議会の学習部会との連携においてさらなる活性化を図り、学習確認プログラムや週末課題の効果を分析する
- 学力向上委員会と連動した教科会を実施し、課題に対しての教職員の共通理解を図る
- 具体的項目 教科の授業を大切にしているか・教科の授業はわかりやすいか・定期テストや学習確認プログラムへの準備・各種テスト

## 中間評価

### 各種指標結果

- 各教科での学習活動の取組は一定の定着が見られるようになったが主体的な学びといった点では不十分な点もおおく本時のねらいを生徒に理解させ、深い学びへと発展させるための授業作りが課題である。
- 3年生学習確認プログラムの、昨年度 Pre-Stage2 と今年度 1st-Stage の指数比較では、総合+1・国語+3・社会-1・数学+1・理科-6・英語+7 と、社会と理科以外は良い結果であった。
- 週末に課題配布→翌週月曜日に回収を行うサイクルを定着させ、5教科の基礎学力の定着をめざした。も100%を目指しているが毎回到達しない現状もある。
- フロアや教室に学習資料を設置し、これまでの学習を復習するプリントを準備することにより、利用する生徒が増えてきた。

自己評価	<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <p><input type="checkbox"/>教科の授業を大切にしている。平成29年度 84% ⇒ 平成30年度 92% ↑</p> <p><input type="checkbox"/>教科の授業はわかりやすい。平成29年度 79% ⇒ 平成30年度 87% ↑</p> <p><input type="checkbox"/>定期テストや学習確認プログラムに、きちんと準備をして臨んだ。 平成29年度 71% ⇒ 平成30年度 76% ↑</p> <p><input type="checkbox"/>学習を大切にしている意識が上がってきている。テスト1週間前に行っている授業後の学習の時間の設定や、学習確認プログラム前の各学年の取り組みも良い結果をもたらした要因と考えられる。生徒の学習に取り組む意識が向上してきたが、まだまだ、家庭学習の時間や学習内容に課題がある。</p>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p><input type="checkbox"/>各教科による授業とリンクした家庭学習課題の設定を行う。</p> <p><input type="checkbox"/>各教科によるグループ活動や学び合い活動の充実と定着を図る。</p> <p><input type="checkbox"/>グループ学習を取り入れた授業の研究を進め、「自主的・対話的で深い学び」につながる授業の展開に向け指導力向上を目指す。</p> <p><input type="checkbox"/>総合育成支援委員会を通し、支援を要する生徒の情報共有を徹底する。</p>
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <p><input type="checkbox"/>学校評価アンケート（確かな学力）の分析</p> <p><input type="checkbox"/>学習確認プログラムの結果と分析</p> <p><input type="checkbox"/>進路希望調査</p> <p><input type="checkbox"/>教育相談</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p><input type="checkbox"/>休日参観や様々な行事参加で授業の様子を見ることはよい。</p> <p><input type="checkbox"/>授業改善や家庭学習の成果が現れ学力向上につながってきた。</p> <p><input type="checkbox"/>学校、家庭で提出物についての指導を徹底していきたい。</p> <p><input type="checkbox"/>学校運営協議会でも家庭への働きかけはできないか。</p>

### 最終評価

	<p><b>中間評価時に設定した各種指標結果</b></p> <p>* 3年生学習確認プログラムの、5月1stと10月2ndの指数比較では、総合<math>\boxed{+3}</math> 国語<math>\boxed{+1.4}</math> 社会<math>\boxed{+3.6}</math> 数学<math>\boxed{+3.3}</math> 理科<math>\boxed{+4.9}</math> 英語<math>\boxed{+2.1}</math> と、指数の比較では上昇した。</p> <p>* 2年生の学習確認プログラムの、Pr3のでは、全市平均で総合<math>\boxed{+4}</math> 国語<math>\boxed{+1.3}</math> 社会<math>\boxed{+1.2}</math> 数学<math>\boxed{+7.2}</math> 理科<math>\boxed{+4.1}</math> 英語<math>\boxed{+5.3}</math> と基礎的な学力が定着してきた。今年度の放課後の学習などの取組が少しずつ定着してきた。</p> <p>* 1年生の学習確認プログラムの、Basic Stage2では、全市平均で総合<math>\boxed{+2.7}</math> 国語<math>\boxed{+2.9}</math> 社会<math>\boxed{+0.6}</math> 数学<math>\boxed{+5.6}</math> 理科<math>\boxed{+4.8}</math> 英語<math>\boxed{+0.8}</math> と基礎的な学力が定着してきた。今年度の授業の改善や補習の学習などの成果があらわれた。</p>
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <p>* 確認テストに向けた学習定着への意識付けを教科会で検討する必要がある。</p> <p>* 定期テスト前の学習会での効果は見られたが、さらに家庭学習の充実が必要である。そのためにも家庭（保護者）と連携が必要である。</p> <p>* これまでの課題である、予習復習率の改善と家庭学習の習慣化の定着について、週末課題・確認テスト・学習確認プログラムの予習シート・振り返りシート活用など、習慣化した学力の定着が必要である。</p>

	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>1年・2年・3年生と学力向上の取組の成果が出てきている。課題である、学習準備不足（家庭学習の不足）に対しての家庭学習の充実、全学年の課題と考える。</p> <p><input type="checkbox"/>全校として週末に課題（宿題）をだし、家庭での学習を定着させ基礎学力の向上を目指す。</p> <p><input type="checkbox"/>土曜学習の開催（1・2年は定期考査前の土曜日 5回、3年生は11月～の土曜日と定期考査前の土曜日16回の構成</p> <p><input type="checkbox"/>「振り返りスタディ」「未来スタディ」を有効活用する。</p> <p><input type="checkbox"/>定期考査前1週間（部活動停止期間）の放課後30分自主学習（全員参加）を実施する。</p>
	<p><b>重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週末課題の定着によって、定期テストに向け成績アップにつながるように、校内で学力向上を考え、土日の週末課題の取組だけでなく、平日の家庭学習の定着にもつなげる。</li> <li>・学力向上のため、プリントの工夫と定期テスト問題との関連を図る。その中で平日の家庭学習の充実につなげる。</li> <li>・授業における学習確認プログラム「予習シート」「フォローアップシート」の具体的な活用方法を教科会で再度検討し、来年度の学習確認プログラム実施に活かす。</li> </ul>
<p>学校関係者評価</p>	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*アンケートからもわかるように家庭学習の不足が大きな要因である。</li> <li>*家庭学習の定着をはかる従来の取組をさらに強化すべきである。</li> <li>*学校運営協議会としても土曜学習部会の活性化と学生ボランティアの活用をすすめたい。</li> </ul>

**(2)「豊かな心」の育成に向けて**

	<p><b>重点目標</b></p> <p>教科学習はもとより道徳教育や人権教育、各種行事における体験を通じて自然や命を大切に、人を思いやる心、美しいものに感動する感性を培い、粘り強く挑戦し、くじけない強い精神力を養い、よりよく生きようとする姿勢を学ぶことで自尊感情・自己有用感を育む</p>
	<p><b>具体的な取組</b></p> <p>すべての学校活動において「自ら考え、表現し、聴く活動」を実践し、特に表現する場面では多様な表現方法を体現する</p> <p><input type="checkbox"/>道徳教育を研究活動の中心に据え、教科の授業の改善にもつなげる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 6月9日（土）に実施する休日参観において1年生；学年道徳、2年生；ふれあいドクトク、3年生；学級道徳を保護者・地域参加型のものとして公開</li> <li>* 10～11月には道徳の公開授業を実施（公開授業は全校道徳の形態で実施する）</li> <li>* 12月には収穫祭とリンクした縦割りの全校道徳を実施</li> <li>* 学級道徳だけでなく、学年道徳・全校道徳を状況や時期に応じて企画</li> <li>* ローテーション道徳の実施</li> <li>* 評価の有効実践</li> </ul> <p><input type="checkbox"/>花山スタイルの人権学習をすすめる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 各学年とも外国人教育を年間で1度は取り上げ、あとの1回は独自の人権課題をとりあげるとい外国人教育を中心としたカリキュラムの充実</li> </ul> <p><input type="checkbox"/>各種行事や部活動を通して感動する体験を適切に設定する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 菜園活動で縦割りの取組</li> </ul>

\*学校祭（文化の部・体育の部・合唱コンクール）を通じた協働活動

\*自分を大切にできるだけでなく他者への思いやりを育てる活動

**（取組結果を検証する）各種指標**

道徳教育を研究活動の中心に据え、教科の授業の改善の中で取り組みを検討する

学校評価をもとに、自尊感情・自己有用感を育みなどについて検証する

具体的項目 仲間を大切にしている・自分を大切にでき自分を誇れる生き方ができている・あいさつができるなど学校や社会のルール、マナーを守っている

中間評価

**各種指標結果**

仲間を大切にできてきている。 平成29年度 93% ⇒ 平成30年度 97% ↑

自分を大切にでき、自分を誇れる生き方ができている。

平成29年度 77% ⇒ 平成30年度 81% ↑

挨拶ができるなど、学校や社会のルールやマナーを守っている。

平成29年度 93% ⇒ 平成30年度 97% ↑

道徳の授業を充実させることで、仲間や自分を大切にする意識が育っていると考えられる。

生徒会や部活動で挨拶に取り組んでいるが、地域の方や保護者の方から見て、挨拶が出来ているかについては、少し不安が残る。

自己評価

**分析（成果と課題）**

道徳教育を研究活動の中心に据え、教科の授業の改善の中で取り組みを検討した結果、自尊感情・自己有用感を育ってきている。課題としては、様々な行事への自主性や積極性を重視した活動の工夫が必要である。

**分析を踏まえた取組の改善**

仲間を大切に、学校や社会のルール、マナーを守る意識を高めるために、生徒の自主性や積極性を育てる。

生徒会を中心とした「あいさつ運動」や集会の企画・運営の工夫と小学校連携の推進。

地域行事への積極的な参加や地域への貢献活動。

**（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標**

保護者アンケート

生徒アンケート

全国学力調査生徒質問紙

学校関係者評価

**学校関係者による意見・支援策**

地域、保護者、PTAが協力し、学校とともに生徒の育成に努めていく。

花山スタイルの人権学習をすすめ、各学年において独自の人権課題をとりあげるといふ外国人教育を中心としたカリキュラムの充実

各種行事や部活動を通して感動する体験を適切に設定する。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

□仲間を大切にしている。 平成29年度 93% ⇒ 平成30年度 97% ↑

□自分を大切にでき、自分を誇れる生き方ができている。

平成29年度 77% ⇒ 平成30年度 81% ↑

□挨拶ができるなど、学校や社会のルールやマナーを守っている。

平成29年度 93% ⇒ 平成30年度 97% ↑

\*非常に高い数値を維持できている。道徳の授業の取組や、学校行事での集団活動等による効果が出ている。継続して道徳授業で集団作りを高めることや、学校行事でも仲間とともに取り組む活動を充実させたい。

\*生徒会や部活動で挨拶に取り組んでいるが、地域の方や保護者の方から見て、挨拶が出来ているかに課題が残る。

自己評価

分析（成果と課題）

\*「仲間を大切にしている、あいさつができるなど学校や社会のルール、マナーを守っている」は平成27年98%・平成28年97%・平成29年93%・平成30年97% と平成30年度に回復傾向となった。全体的に高い水準を保っている。

\*「自分を大切にでき自分を誇れる生き方ができている」は平成27年85%・平成28年78%・平成29年77%・平成30年82% と自己有用感・自己存在感の育成が今後必要である。

分析を踏まえた取組の改善

\*昨年度、文科省の道徳の研究指定を受け、道徳教育の強化に努めてきた。今年度は、その発表の効果がやや現れたと考える。

\*また、以前から独自にすすめてきた道徳の評価の定着し生徒に浸透してきている。

\*「自分を大切にでき自分を誇れる生き方ができている」が平成29年度は77%であったが、平成30年度は82%となったが、さらに学校行事・道徳授業・集団活動で改善を図る。

重点目標の達成状況、次年度の課題

\*他人を思いやる心・優しい心・柔らかい心などを身に着け、感性豊かな人間性を育む。

\*円滑な人間関係の構築を目指し、自己と他者との関わりを大切にすることを育てる教育活動をあらゆる場面で実践する。

\*すべての教育活動において、教職員が人権教育を教育活動の根幹に据えた取組を推進し、生徒解を基盤に日々取り組むことにより、今年度徐々にではあるが目標に向かった前進できたと感じている。

<課題>

・今年度の取組の継続と徹底である。そのためには、花山スタイルの人権学習をすすめ、各学年において独自の人権課題をとりあげるという外国人教育を中心としたカリキュラムの充実と、学校組織をチームとして取り組む。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

\*ここ数年、この項目は高い水準を維持できていることを評価したい。

\*地域でのマナー、ルールも向上しているように感じる。

\*ただし「自分を大切にでき自分を誇れる生き方ができている」が減少したことより道徳教育の推進をさらに強化してほしい。

### (3)「健やかな体」の育成に向けて

#### 重点目標

体育の授業での基礎体力づくり活動や部活動を通じて、健やかな体を育む。また、心の健康にも気を遣わせるよう意識して取組を工夫する

#### 具体的な取組

##### □保健体育の学習

体育の授業を通じて体力と運動能力の向上を目指して取り組むと共に、保健の学習を通じて心身の健康に向けての理解を深める

##### □部活動

運動部活動において心身を鍛えることの意味と喜びを感じさせる。また、健康と体力の保持増進のためには食と休養（睡眠）とが大切であること、そして事故を起こさない安全の大切さを理解させ実践させる

また、文化系の部活動においても心身、特に心の健康について理解を深めさせると共に実践させる

今年度から毎週水曜日を週休日とし、部活動を運営する

##### □不登校生徒へのきめ細かい指導

これまでから不登校傾向にある生徒に対しては、特にきめ細かい心の通った指導を心掛けてきており個々に応じた指導や取り組みを心がけ、画一的なものにならないようにとくに配慮していく。また生徒だけでなく保護者の気持ちに寄り添った指導を実現させていく

#### (取組結果を検証する) 各種指標

□クラスマネージメントなどの活用により、実態分析とめ細かい心の通った指導について職員会議等で検証する

□体力と運動能力の向上と身の健康に向けて、学習・部活動において各部会を通じ共通理解と取り組みの検討を行う

具体的項目 部活動などの課外活動に一生懸命取り組んでいる・運動や読書、DVD鑑賞などストレスをため込まない術がある・早寝、早起き、朝ご飯など自分の健康管理に努めている 部活動加入率

### 中間評価

#### 各種指標結果

□部活動など課外活動（学校外での活動を含む）に一生懸命に取り組んでいる。

平成29年度 83% ⇒ 平成30年度 89% ↑

□運動や読書、DVD鑑賞など、ストレスをため込まない術がある。

平成29年度 77% ⇒ 平成30年度 78% →

□「早寝・早起き・朝ごはん」など、自分の健康管理に努めている。

平成29年度 74% ⇒ 平成30年度 72% ↓

□就寝時間が遅く、睡眠時間が短い生徒が多い。委員会活動などを通じて改善していかなければならない課題である。

#### 自己評価

##### 分析（成果と課題）

□・生活面での大きな乱れは見られないが、全体的に睡眠時間が短いといった現状がある。

□・健康教育のさらなる充実が必要である。

##### 分析を踏まえた取組の改善

□睡眠時間の確保のため、基本的な生活習慣の定着に向けて、家庭との連携や協力を強めていく。

□健康教育の充実に向け、学校・家庭・地域が連携し、子供たちの健全育成に関する取組を推進していく。

##### (最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

□クラスマネージメントの活用

□生徒アンケートの分析

学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b>
	□違法薬物の乱用の低年齢化が心配である。今の時代はSNSなどを使って簡単に手に入ることから、家庭での教育力が大事である。
	□思春期の時期は、少人数の方が目がよく行き届くのでいいと思う。ただ、今の子どもたちは繊細なので人間関係に気をつけなければいけない。
	□チャレンジ体験で生徒の活躍がよかった。

### 最終評価

<b>中間評価時に設定した各種指標結果</b>	
□部活動など課外活動（学校外での活動を含む）に一生懸命に取り組んでいる。	平成29年度 83% ⇒ 平成30年度 89% ↑ ※保護者 83%
□運動や読書、DVD鑑賞など、ストレスをため込まない術がある。	平成29年度 77% ⇒ 平成30年度 78% → ※保護者 88%
□「早寝・早起き・朝ごはん」など、自分の健康管理に努めている。	平成29年度 74% ⇒ 平成30年度 72% ↓ ※保護者 68%
<p>・部活動に参加している生徒や、地域のスポーツクラブなどに参加している生徒について、積極的に取り組んでいることが現れた。さらに、部活動休養日などを利用して心身の休息も行っている。ただし、生活リズムについてはまだまだ委員会活動を通じて検討する。</p> <p>・課題のある支援の必要な生徒に対して、生徒はもちろん保護者も含めたケア・指導など、きめ細かな対応を継続する。</p>	

自己評価	<b>分析（成果と課題）</b>
	<p>*帰宅してから就寝するまでの時間の使い方と、その時間内に学習時間をどう組み込むかを学年に応じて指導する必要がある。</p> <p>*課題のある生徒の対応の保護者との連携は課題である。</p> <p>*ここ数年来の課題は、ストレスと規則正しい生活環境であることは、数値からも明白である。</p> <p>*家庭学習時間の充実については、小中学校が連携した取組（小中合同会議）を検討してほしい。</p>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
<p>*部活動休養日を水曜日に固定する取組を継続する。</p> <p>*規則正しい生活のリズムを作る一助として、学校での点検活動を定期的におこなう。</p> <p>*健康観察を継続する。</p> <p>*課題のある生徒への基本的な生活習慣に関する指導を、保護者を交えて家庭訪問や懇談会で行う。</p> <p>*帰宅後の時間の使い方を、学習指導部と連携し各クラスで実施する。</p> <p>*メンタル面で心配な生徒への対応を、学年・学校として把握しながら、SC・SSWとも連携する。</p>	
<b>重点目標の達成状況、次年度の課題</b>	
<p>*全般的には概ね目標達成できている。</p> <p>*この項目の向上には家庭の協力が不可欠である。</p> <p>*学校運営協議会の図書館部会の取組を活性化し、課外活動としての図書館の活用をすすめていく。</p> <p>*心身を鍛えるとともに、基本的な生活習慣を定着させ、日々の健康安全を守る取組を推進する。</p> <p>《次年度の課題》</p> <p>*生徒への保護者も含めた継続した働きかけが、来年度の課題である。</p> <p>*メンタル面で不安定要因のある生徒に対し、教職員の情報の共有とSC・SSWとのより具体的な連携を進める。</p>	

学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b>
	*課題のある支援の必要な生徒に対して、生徒・保護者も含めたケアや指導など、これまで通り丁寧な対応を継続する。
	*帰宅後の時間の使い方、特に学習時間の確保については、小中学校が連携した取組を検討してほしい。
	*部活動をしないうちにストレスを解消・心身の休養できるような取組が必要 *地域としても、部活動休養日が増えることを活用して、生徒が地域に戻ってくることを期待している。

#### (4) 学校独自の取組

<b>重点目標</b>
地域に支えられた小中学校として、現在並びに未来にかけて地域に貢献できる人材育成という視点を大前提として 「自ら学び未来を切り拓く自律心あふれる心身ともに健康な子どもの育成」 ～家庭・地域の想いととも～
<b>具体的な取組</b>
1. 正しい知識と判断力とをもち、話し合いや行動ができる人 ①学びのルールを身につける②自学自習の習慣を身につける③読解力を身につける
2. 相手意識をもち、自分の考えや意思を伝えられ、将来の自分を見据えて努力できる人 ①相手の立場に立って考え、行動できる②いじめを許さない
3. 「夢」と「目標」実現させるため心身の健康の保持と増進に努められる人 ①基本的な生活習慣を身につける②規範意識を身につける③主体的に運動やスポーツを楽しむことができる④飲酒、喫煙、薬物の危険性について正しい知識を身につける
<b>(取組結果を検証する) 各種指標</b>
<input type="checkbox"/> 小中統一学校評価を実施し取組みについて分析を行う <input type="checkbox"/> 3校合同研修会を実施し研修会での検証を行う。 具体的項目 小中統一評価項目 6点

#### 中間評価

<b>各種指標結果</b>
<input type="checkbox"/> 学校行事に楽しく参加した。 平成29年度 90% ⇒ 平成30年度 92% →
<input type="checkbox"/> 学校には楽しく来ることができている。 平成29年度 85% ⇒ 平成30年度 87% →
<input type="checkbox"/> 花山中学校の教職員は、生徒のことを大切にしている。 平成29年度 91% ⇒ 平成30年度 95% ↑
学校行事が多くあり、それに向けて一生懸命取り組む生徒の姿が見られた結果と考えられる。
<b>分析(成果と課題)</b>
<input type="checkbox"/> 学校行事が多くあり、それに向けて一生懸命取り組む生徒の姿が見られた。 <input type="checkbox"/> 正しい知識と判断力とをもち、話し合いや行動ができる力を、話し合い活動等を通じて身につける。
<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
<input type="checkbox"/> 学校評価をもとに、自尊感情・自己有用感を育みなどについて検証し改善をおこなう。 <input type="checkbox"/> 開かれた学校として学校公開・学年便り・学級通信・学校HP等での学校の様子を発信する。 <input type="checkbox"/> クラスマネージメントなどの活用により、実態分析とめ細かい心の通った指導について職員会議等で検証する。
<b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b>
<input type="checkbox"/> 小中統一学校評価を実施し取組みについて分析を行う <input type="checkbox"/> 3校合同研修会(総会)を実施し研修会での検証を行う <input type="checkbox"/> 小中統一評価項目での生徒・保護者アンケート

学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b>
	<input type="checkbox"/> 小中学校が連携して取り組んでいる成果が出ている。
	<input type="checkbox"/> 学校運営協議会として、地域の諸団体の会合等でアピールしていく。
	<input type="checkbox"/> 学年だよりやHPで、学校の様子がよく発信されている。今後もぜひ継続していただきたい。

### 最終評価

<b>中間評価時に設定した各種指標結果</b>
*授業や家庭学習など、自らすすんで学ぶことができますか…低学年 90% 中学年 82% 高学年 80.5% 中学校 70.6%
*人の話をよく聞いたり自分の考えや思いを相手に伝えたりすることができますか …低学年 87.5% 中学年 81% 高学年 80% 中学校 88%
*自分や友達、家族や周囲の人を大切にしていますか…低学年 99% 中学年 98% 高学年 97.5% 中学校 98%
*友達や家族、地域の人に気持ちよく自分からあいさつしたり必要な時はごめんなさい、ありがとうの言葉がいえませんか …低学年 91% 中学年 93% 高学年 95% 中学校 95.6%
*自分から進んで運動する時間を作っていますか…低学年 84.5% 中学年 86.5% 高学年 69.5% 中学校 63.3%
*規則正しい生活習慣を身につけ病気の予防など健康を保つ努力をしていますか …低学年 84% 中学年 82.5% 高学年 85.5% 中学校 81.6%
*小中 9 年間の比較からわかるように家庭学習の不足は中学校が顕著である。(1) 確かな学力の取組を強力に推進することが大切である。
*コミュニケーション力については小中で、アウトプットする機会を多く与えることができた。
*規則正しい生活習慣については、小中で「生活のルール徹底～衣食住に関する共通ルール」を徹底する。

自己評価	<b>分析（成果と課題）</b>
	*生徒指導の情報共有が、自校のみならず小中が一緒になって共有できつつある。
	*情報発信の充実は、学年通信・学級通信・ホームページ・PTAの配信において発信できている。
	*小中統一学校評価を実施し取り組みについて分析ができた。
	*小中一貫教育の推進は、小中合同の各部会の取組のさらなる活性化に向けた方策の検討と、その取組の「見える化」「小中全教職員への周知」が課題である。
	*情報発信の充実は、今までの取組の継続はもちろん、保護者・地域が欲する情報が何なのかを理解し提供することも課題である。

<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
*小中 9 年間の比較からわかるように家庭学習の不足は中学校が顕著である。(1) 確かな学力の取組を強力に推進することが急務である
*コミュニケーション力については小中で、アウトプットする機会を多く与え 90P に近づけたい
*規則正しい生活習慣については、小中で「生活のルール徹底～衣食住に関する共通ルール」を徹底する。
* 3 校合同研修会（総会）を実施し研修会での検証を行う。 ※具体的項目（上記） 小中統一評価項目 6 点

<b>重点目標の達成状況、次年度の課題</b>
*小中一貫教育の推進について小中合同会議などで推進することができた。
*情報発信の充実は、学年通信・学級通信・ホームページ・PTAの配信等において発信できている。
《課題》
*小中一貫教育の推進は、小中合同の各部会の取組のさらなる活性化に向けた方策の検討と、その取組の「見える化」「小中全教職員への周知」が課題である。
*開発的生徒指導の展開は、各校がマンネリ化しない取組の継続と、小中の取組の共有を図り児童生徒にも発信す

	<p>ることが課題である。</p> <p>* 情報発信の充実、今までの取組の継続はもちろん、保護者・地域が欲する情報が何なのかを理解し提供することも課題である。</p>
<p>学校関係者評価</p>	<p><u>学校関係者による意見・支援策</u></p> <p>* 学校だよりやHPで、学校の様子がよく発信されている事を評価する。今後もぜひ継続していただきたい。</p> <p>* 小中統一した評価アンケートの実施で、その特徴がよくわかるようになった</p> <p>* 中学校には家庭学習の習慣づけを強化してほしいが、学校運営協議会としても土曜学習などを通じて後押しする</p> <p>* 高い水準にある他者への思いやりやあいさつなどは、地域でも行事への参加などを通して支援していきたい</p> <p>* 規則正しい生活習慣は小学校から見直す必要性があり、小中連携をすすめてほしい。</p>